



昭和医科大学横浜市北部病院 地域医療連携 医療機関向け ニュース

No.27

2025年7月号
(年4回発行)

発行／地域医療連携室

〒224-8503

横浜市都筑区茅ヶ崎中央35-1

電話：045-949-7151

● 北部病院における最新型Robot支援手術 (da Vinci Xi) (中面) ● 北部病院からのお知らせ (裏面)

小児外科 最新事情



小児外科診療科長・准教授
すぎやま あきひで
杉山 彰英

小児外科はこどもセンターの一部門として、小児科医、新生児科医と連携して、内科、外科の境界がないシームレスな小児チーム医療を行っております。

当科はこどもの将来を見据えて、手術の適応を厳密に判断し、保存的療法も併せて検討しております。手術に関しては、こどもの負担が少ない鏡視下手術を積極的に導入し、小児外科で最も多い疾患である鼠径ヘルニアの手術は、9割以上の患者さんにおいて、2～3mmの細径器具を用いた腹腔鏡下手術となっています。

こどもの手術においては、患者さんの身体的負担のみならず、患者さんご家族の精神的負担も同時に考慮する必要があります。当科は、短期予定入院患者さんが安全に付き添い入院できる体制を構築しました。また、最近では、**臍ヘルニアと女兒鼠径ヘルニア（腹腔鏡下手術含む）**に対し、**土曜日の日帰り手術を導入**し、ご好評をいただいております。

土曜日の日帰り手術の利点は表に示すとおりです。

土曜日日帰り手術の利点

1. ご家族と離れる時間が少なく手術を受けられる。
2. 入院準備の手間が少ない。
3. 院内感染の機会が減少する。
4. ご家族の都合をあわせやすい。
5. 翌日が日曜日のため、術後にゆっくりと休むことができる。

日帰り手術の流れ

初診

初診外来（金曜日以外）で診断、手術適応の判断、手術日決定を行います。
可能であれば、同日に術前検査（血液、尿、X線）を行います。

手術前日

麻酔科周術期外来を受診し、診察と麻酔の説明をします。

手術当日

入院受付で手続き後、小児病棟へ移動します。
午前中に手術を受け、術後約3時間で医師の診察を受けます。
問題なければ手続き後に退院します。

手術翌日

お電話で様子を確認します。
その後は術後約1週間、1か月目に外来診察を行います。

2024年4月から医師の働き方改革の新制度が施行されました。医師の働き方改革と、患者さん、そのご家族の利便性向上を両立させることは容易ではありませんが、昭和医科大学では新制度が施行される前に十分な時間をかけて、大学全体で働き方改革に取り組んできたため、土曜日の日帰り手術が可能となっております。

当院には、豊富な手術経験を有する小児外科医が複数在籍しており（日本小児外科学会指導医2名、同専門医3名）、日帰り手術の対応については麻酔科を含めた関連各科と十分な協議を重ねたうえで構築しました。また、こどもセンターはあらゆる状況に対応できるチームであり、安心して手術を受けていただけます。

地域医療機関のみなさまへ

鼠径ヘルニアならびに臍ヘルニアのお子さんがいらっしゃいましたら、ぜひ当院へご紹介ください。また、その他の小児外科疾患（疑い含む）もお気軽にご紹介ください。今後もみなさまと連携し、こどもとご家族に優しい小児医療を提供できるよう努めてまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

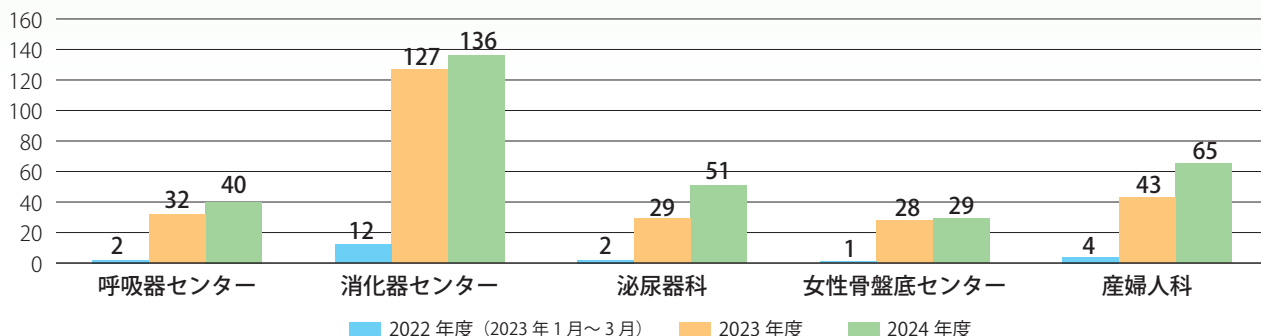


北部病院における最新型Robot支援手術 (da Vinci Xi)

2023年1月より導入いたしました最新型手術支援ロボット「da Vinci Xi」による手術は、適応手術も順次拡大され、呼吸器センター（呼吸器外科）、消化器センター（消化器外科）、泌尿器科、女性骨盤底センター、産婦人科において、26の術式（2025年6月現在）が実施されています。

2024年度は合計で321件の手術が実施され、1日で2件以上の手術を実施した日は月平均で約6日となりました。引き続き、患者さんが最適な治療を受けることができるよう努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

ダヴィンチ実施症例数



呼吸器センター（呼吸器外科）におけるロボット支援手術

本邦における呼吸器外科領域のロボット支援下手術は、2018年に肺悪性腫瘍と縦隔腫瘍に対する術式として保険収載され、その実施数を伸ばしてきましたが、特に第4世代となるda Vinci Xiサージカルシステムの登場により急速に実施施設が増えてきております。

当科でも2023年3月よりロボット支援下手術を導入し、2024年度までに74例の手術を施行しました。da Vinci Xiによる手術の最大のメリットは繊細な操作で低侵襲かつ安全な手術をおこなえることです。特に呼吸器外科領域では心、大血管に隣接する部位での手術操作や肺動脈、肺静脈、気管支といった主要組織を剥離、切離する必要があるため、da Vinci Xiの性能が非常に良く発揮されております。一方でデメリットとしては触覚の欠如があり、従来の開胸や胸腔鏡下手術とは異なる手術感覚が必要とされることを感じております。

現在、術者資格を植松秀護准教授、鈴木浩介講師の2名が取得しロボット支援下手術の術者を担当し、鈴木はda Vinci指導者資格であるプロクター資格を取得しました。今後もメリット、デメリットを十分に把握した上で適応をしっかりと判断し、安全かつ根治性の高いロボット支援下手術を実施していきます。

消化器センター（消化器外科）におけるロボット支援手術

本邦での消化器外科領域のロボット支援下手術は2018年4月より食道癌、胃癌、直腸癌症例が保険収載され、2022年4月より結腸癌のロボット手術が保険収載されました。当科では2023年1月のロボット支援下での直腸切除術、2023年7月より胃切除術、2023年12月より結腸切除術を開始いたしました。消化器外科領域では毎週手術を施行しており、2025年5月までに直腸切除は約200例、結腸切除を150例、胃切除を100例ほど施行いたしました。

従来の腹腔鏡下手術では、使用する鉗子が開閉動作のみであり、鉗子操作の自由度が非常に制限されておりますが、ロボット支援下手術は、自由度をもった多関節の鉗子で、人間の手関節以上の可動域があること、立体的な画像を見ながらの直感的操作が可能で、手ぶれ防止機能があることにより精密な操作が可能であり、その精密な手術操作により、安全性や機能温存の面でも期待されております。当科でのロボット手術施行領域は胃癌、大腸癌（結腸癌、直腸癌）であります。胃癌、直腸癌においてロボット支援下手術が従来の腹腔鏡下手術より優位性を示している論文が散見されます。特に肥満症例や狭骨盤症例

では手術時間、開腹移行率、術後合併症において優位性を示す論文があり、私たちも実感するところがあります。

さて、当科での手術時のアピールポイントとしては、胃切除術、直腸切除術症例は内科医師に術中内視鏡施行していただき、縫合不全を認めないこと、吻合部出血を認めないことを術中に確認していただいております。手術の安全性確保向上に努めております。今後も、日々努力を怠らないよう邁進する所存であります。

泌尿器科におけるロボット支援手術

当科では、手術支援ロボットda Vinci Xiを用いた前立腺がんおよび腎がんの手術を行っています。

ロボット支援前立腺全摘除術は、2023年2月より開始し、2024年3月からは1日2件の手術が安全に行えるようになりました。今年、齋藤克幸准教授がプロクター資格を取得し、順調に症例を重ねています。ロボット支援手術は、開腹手術に比べて低侵襲であり、特に骨盤深部の前立腺手術においては出血の軽減や尿路再建の精度向上に有用です。術後の痛みが少ないだけでなく、尿失禁などの合併症の抑制にも寄与します。全身状態の回復も早く、入院日数の短縮が可能です。

腎がんに対するロボット支援腎部分切除術は、腹腔鏡技術認定医の松原英司講師を中心に、2024年3月から開始し、安全かつ確実に施行しています。より早く、確実に縫合操作を行うことが可能となるとともに、腫瘍のみを正確に切除しつつ腎機能を最大限温存できるため、将来的な腎機能障害や透析リスクの低減にもつながります。

現在、当科ではロボット手術を術者3名、助手4名の体制で行っております。今後、膀胱がんの膀胱全摘術や腎盂・尿管がんにも対象範囲を広げていく予定です。

女性骨盤底センターにおけるロボット支援手術

当センターでは、骨盤臓器脱に対する仙骨脛固定術を従来は腹腔鏡で施行してきました。当院のda Vinci Xi導入に伴い2023年3月よりロボット支援下仙骨脛固定術を開始し、ひと月に2～3件のペースで安定して施行しています。

仙骨脛固定術とは、短冊形メッシュの下端を前後の脛壁に、上端を岬角前面の前縦靱帯に縫合固定することで、下垂した脛壁や骨盤内臓器を正常な位置に戻す手術であり、再発率が低く優れた術式の一つです。この術式では多くの剥離操作と縫合操作を必要とします。従来の腹腔鏡を用いた仙骨脛固定術では脛壁や岬角といった深い部分には鉗子やスコープが届きにくいため、操作が難しいことがありましたが、da Vinci Xiを用いることでより緻密で精度の高い操作が可能となりました。

ただし手術時間がやや長くなるため、患者さんの年齢、合併症、骨盤臓器脱の状態などによっては、他の手術法（腹腔鏡手術や経脛的手術）をおすすめする場合もあります。十分に相談を重ねることで個々の患者さんにとって最適な治療を選択できるよう努めています。

産婦人科におけるロボット支援手術

当科ではより体に負担の少ないロボット手術を導入しています。ロボット手術を安全に行えるロボット手術有資格者が2名常勤しており、子宮筋腫と一部の子宮悪性腫瘍に対する子宮全摘術を行っています。ロボット手術にはお腹の傷が小さい、手術中の出血量が少ない、入院期間が短いなどの利点があります。2024年度はロボット支援下で子宮筋腫55例、子宮悪性腫瘍10例の合計65件で子宮全摘術を行いました。

子宮筋腫に対してはその他従来行われていた開腹（お腹を開ける手術）子宮全摘術や腹腔鏡下子宮全摘術も行っています。すべての子宮筋腫でロボット手術が可能ではありません。どの手術法を選択されるかについては外来で担当医と相談の上、安全性を最優先で決めていきます。子宮筋腫で手術が必要な状況となった場合はロボット支援下子宮全摘術が行える可能性がありますので、受診の上ぜひご相談してください。

北部病院からのお知らせ

1 『ふたり主治医制』を推進しています

関係医療機関のみなさまには、日頃より患者さんをご紹介いただき、ありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

当院では、ご紹介患者さんの治療や症状が落ち着きましたら、再びかかりつけ医のみなさまにご紹介する「ふたり主治医制」を推進しており、その基本となる逆紹介率の向上に病院全体で取り組んでいます。

2024年度の逆紹介率は月平均91.6%となりました。引き続き、逆紹介率の上昇に向けた対策やその実施に取り組んでまいります。



患者さん向け
パンフレット

2 病診連携研修会の予定

名 称	内 容	日 時	開催場所	担当医師等・連絡先
第 23 回 国際消化器内視鏡セミナー（横浜ライブ 2025）	内視鏡手技実演	2025 年 7 月 19 日（土）	新横浜プリンスホテル	消化器内科 神山勇太 045-949-7265
第 25 回内視鏡的粘膜切除術 / 内視鏡的粘膜下層剥離術研究会（EMR/ESD研究会）	症例検討	2025 年 7 月 20 日（日）	新横浜プリンスホテル	消化器内科 林武雅 045-949-7265
第 21 回AI-拡大内視鏡研究会	症例検討・講演	2025 年 9 月 13 日（土）	ベルサール半蔵門	消化器内科 三澤将史 045-949-7265
第 34 回大腸Ⅱc 研究会	症例検討・講演	2025 年 9 月 14 日（日）	ベルサール半蔵門	消化器内科 一政克朗 045-949-7265

3 地域医療連携フォーラムについて

第33回地域医療連携フォーラムを次のとおり開催し、講演会及び懇親会に、病院内外から多数の参加がありました。ありがとうございました。

日 時：2025年6月19日（木）19時15分から21時

場 所：昭和医科大学横浜市北部病院

講演1：甲状腺結節性病変とその最新治療

座長 センター南駅前おなかクリニック 院長 小川 修 先生

演者 甲状腺センター 講師 坂上 聡志

講演2：難聴とフレイル

座長 耳鼻咽喉科 葛が谷こまクリニック 院長 佐藤 成樹 先生

演者 耳鼻咽喉科 准教授 野垣 岳稔

第34回の地域医療連携フォーラムは、2025年11月19日（水）に、整形外科及び病院歯科の講演と懇親会を予定しています（次回は水曜日の開催です）。

開催日が近づきましたら、当院ホームページやチラシでご案内させていただきますので、ご参加のほどお願い申し上げます。

4 月曜日祝日（国民の祝日にあたる月曜日）の対応

日 付	曜 日	休日名	対 応
7 月	21 日	月	海の日
8 月	11 日	月	山の日
9 月	15 日	月	敬老の日

※救急対応を原則とし、救急、初診、紹介、並びに通院中の方で状態変化による臨時再診をお受けします。
※紹介状がない場合は選定療養費（8,800 円）が別途発生する場合があります。